



「ここを一つに平和を宣べ伝えよう」

世界平和記念聖堂献堂50周年実行委員会 常任委員会

< 目次 >

1. お知らせ		5. 「献堂50周年を迎える祈り」	
ホームページに公開 2	荻原教区長の訴え 6
ルーメル神父講演会のビデオ配布 2	今月の祈り 7
担当者の届出のお願い 2	6. 各地区の取組み 8
2. 聖堂建設の歴史シリーズ		7. 部会だより	
「平和祈念祭」における濱井市長の挨拶 3	< 総務部会 > 8
「平和祈念祭」における高松宮様の挨拶 3	< 霊性・典礼部会 >	
3. 「ラッサール神父」の思い出		< 平和活動部会 >	
広島名誉市民「ラッサール神父」 4	< 聖堂存在維持部会 >	
4. 資料紹介		< 記念誌部会 >	
禅 - 悟りへの道 6		

「司祭館の再建」



< 写真左 >

1946年1月に住宅営団のプレハブ住宅をつないで建設された聖堂兼伝道所。屋根の十字架が遠くからよく見えたという。

幟町教会報第275号、281号

チースリク神父の回想録より

< 写真右 >

旧司祭館の焼け残った基礎の上に再建された司祭館。再建当時は2階を香部屋、教区長室、仮聖堂として利用していた。屋根の地球を表す球の上にある十字架は、女専（広島女子大）の焼け跡にあった奉安殿の崩れた屋根の銅板で覆われていた。

幟町教会報第264号

チースリク神父回想録より



お知らせ

ホームページに公開

献堂50周年ニュースは、今回で第3号になりました。既刊の創刊号、第2号をご覧になりたい方は、インターネットで見ることが出来ます。広島司教区のホームページにアクセスし、平和記念聖堂献堂50周年実行委員会/霊性・典礼部会を開いてください。このほか、カトリック広島司教区の活動なども掲載されていますので、是非とも、ご覧いただき、周囲の人にお薦め下さい。

= 広島司教区ホームページのアドレス =

<http://www.hiroshima.catholic.jp/>

ルーメル神父講演会のビデオ配布

2月22日に行われたルーメル神父の「世界平和記念聖堂建設とラッサール神父」講演会のビデオテープを各地区センターにお送りしています。各小教区で献堂50周年の取組みの一環として活用してください。今後も広島で行われる講演会などの記録をビデオ撮影するなどしてお送りする予定です。また、各小教区で取組まれた活動をビデオなどで記録し、実行委員会までお送り下さい。

担当者の届出のお願い

献堂50周年行事の各種案内、ニュースは、地区センターから各小教区にお知らせすることになっていますが、これらの情報がより確実に小教区、信徒にまで届くようにするため、各小教区に直接情報をお届けしたいと思います。つきましては、小教区でEメール・アドレスをお持ちの方に連絡窓口になってくださる方を決めていただき、実行委員会総務部会(教区事務所)までお知らせ下さい。

情報提供のお願い

引き続き、世界平和記念聖堂に関する出版物や写真、新聞記事などを集めています。当時、ラッサール神父と一緒に活動された神父や幼稚園、音楽大学などの職員の方に関する情報などもお寄せ下さい。

< 聖堂建設の歴史シリーズ >

前号に引き続き、「平和祈念祭」の様相を紹介します。「祈念祭」は、昭和26年9月21日午後4時30分から広島平和記念聖堂の建設現場において、ラッサール神父の司式で行われ、ゴーセンス神父が指揮するエリザベト音楽学校生による聖歌の合唱、来賓挨拶などがありました。高松宮様は、祈念祭につづき、記念植樹、サビエル記念館でのエリザベト音楽学校邦楽科中野節子先生による箏曲演奏、講堂内にキャンバスを立て精進する永瀬義郎画伯による絵画教室、中村義男教官の教授するフランス語教室を視察されました。また、教会敷地内の北側に新築された司祭館の西側にあった2坪の小屋、東側にあった3坪の小屋など原爆直後のささやかな教会堂の有様をご覧になり、終戦直後の広島の焼け野ヶ原を連想され、「随分ご苦労だったことだろうね」と申されたそうです。今号は、平和を希求する広島市民の代表として広島市長 濱井信三氏、広島平和記念聖堂建設後援会の名誉総裁 高松宮様の挨拶を紹介します。濱井市長は、子供の頃、幟町小学校に通うために「天主公教会」の門の前を歩いていたそうです。また市長は一切の宗教的な事を遠慮されていましたが、実際はあらゆる方面でお力を貸していただいたそうです。ケルン市長と濱井市長の間で極めて感激的な手紙の交換が行われたとチースリク神父が書き残しています。当時の世界平和記念聖堂建設への期待がいかに大きかったかが良く伝わってきます。



(高松宮をご案内するラッサール神父とゴーセンス神父)

不退轉の決意を以て世界平和達成に

広島市長 濱井信三氏挨拶

本日、高松宮殿下を親しくお迎えして、世界の平和を祈念する祭典を行われますことは、広島市民として誠に喜びにたえない次第であります。われわれ広島市民は、新しい時代の出現を願って、恒久平和を記念する平和都市の建設を決意したのであります。

申すまでもなく、その道は実に遠く、又険しい道であります。併しながら我々が眞に平和を愛し、不退轉の決意を以て、子々孫々にわたるねばり強い努力を継続するならば、われわれの願いの達成せられる日が必ず来ることと固く信ずるものであります。今、私達は、建設の半ばにあるこの平和聖堂のコンクリートの中に立って、平和への祈りを捧げんとしております。此の機曾に、私はラツサル神父を始め、広島カトリック教曾関係者各位に對し、深甚なる敬意と感謝を捧げたいと存じます。

六年前、あの無惨な瓦礫の中に立て、ラツサル神父は生涯をこの廣島の地に捧げて、戦争犠牲者の慰霊と、世界平和運動の為に献身することを誓われ全世界の人間愛の結晶からなる平和の殿堂の建設を決意されたと承って居ります。

この決意がピオ十二世並に世界の人々に伝えられてから五年、今日早くもこの大聖堂実現の近きを見るに至りましたことは、実に感慨に堪えないものを覚えます。われわれはこの聖堂が、一日も早く竣工することを願うと共に、誠実と勇氣とを以て世界平和確立の為に献身することを御誓いして御挨拶と致します。

広島は平和の最も高い力強い基地に

高松宮殿下の御言葉

本日はここに新たな国際都市廣島の地に、平和記念聖堂建立を發願され、献身的努力を致されておるラツサル神父と、これに参加せられる協力者の皆様方が共に集まれ、平和を祈る催しが行われることを、心から深い感動を以て祝福いたすものであります。

恰もかの原子爆弾が廣島に落されたその時に、ラ

ツサル神父が、燃ゆる炎のその下に挺身、日本の平和への復活の神の研修としてうけられると共に、死の街廣島は、永久に荒れ果てたままの街であるかの如く思われたのでありますが、広島市民の胸深く刻まれた平和への意思の下に、甚大な物心両面の被害をうけ乍ら、燃えたぎる復興意欲は着々として新たなる平和都市を建設し、然も今ここに意義深き平和祈念の祭典のありさまを目撃して、その力強きありさまに感謝の意を表するものであります。

幸い、和解と信頼の平和条約が調印いたされまして、益々世界平和のために日本そのものを平和の國土にしようという世界の心持をうかがう事が出来るのであります。

そのときに廣島は、その平和の最も高い、最も力強い基地とならねばならないと信じます。

ローマ法王ピオ十二世をはじめ、世界各國の義金と、國內の淨財を集められ地球上至る所多くの方々の共鳴を得ましたこの聖堂が、誠意ある工事を進めて一日も速かに壮巖の美をおさめ、そして皆様方が心を一にして、皆様方の祈りをなされる日の速かに来らん事を祈りまして私の挨拶といたします。



（建設中の祭壇から挨拶される高松宮様）

<ラッサール神父の思い出 >

ラッサール神父(帰化名 愛宮 真備)は、昭和43年4月1日に当時の山田節夫市長から広島市名誉市民として顕彰されました。昭和43年4月15日付の広島市報第264号に掲載された公告を紹介します。

氏名 愛宮 真備(えのみや まきび)
出生地 ドイツ国ヴェストファーレン州
 エクステンブルグ
本籍地 広島市幟町148番地
現住所 東京都千代田区紀尾井町7番地
 上智大学宿舍

【業 績】

1. 同氏は、明治31年ドイツ国において出生し、ベルリンのハイスクールを卒業して、一時兵役に服したが、退役後の大正10年から昭和3年にわたってオランダ国ファルゲンブルグの聖イグナチ

オ大学、英国のストーニーハースト大学、ヒースロップ大学院等で哲学及び神学を専攻し、哲学博士の称号をうけた。

2. 同氏は翌年の昭和4年に来日し、12年頃まで東京の上智大学において教鞭をとり、学生たちの育成指導にあたるとともに他面社会福祉にも深い関心を持ち、これの向上発展のために献身した。

3. 同氏はその後広島市に居住地を移し、広島陸軍幼年学校及び広島高等師範学校の教官となって、ドイツ語を教えるかたわらしばしば音楽会などを催し、市民の文化生活の向上に寄与した。

4. 同氏は、昭和20年8月6日世界最初に投下された原子爆弾により被爆し、市民とともに言語に絶する苦しみを体験された。昭和23年10月25日に国籍を日本に移し、広島市民として自らの体験を通じて戦争がいかに大きな罪悪であるかを痛



(昭和43年4月27日 広島市役所で行われた名誉市民授賞式後の記念写真)

前列中央がラッサール神父、その右が山田広島市長

感され再びこのような悲惨なことが起らないように世界に訴えることこそ原爆犠牲者の霊を慰めるゆえんであり、生きのこった者の義務であるとの信念に基づき広島市に「世界平和記念聖堂」を建設することを決意され、5年の歳月をかさねて昭和29年8月にその完成をみた。

その建設にあたっての同氏の平和を訴える真摯な態度が、ヨーロッパ、アメリカの諸国をはじめ世界各地の平和を願う人々の心を揺り動かし我国においても高松宮宣仁親王をはじめ当時の総理大臣吉田茂氏、大蔵大臣池田勇人氏、広島市長浜井信三氏の政治家をはじめ、その他内外の学者、実業家など多数の絶大な賛同を得、これらの人々の善意の巨額の浄財を基に完成されたものである。この聖堂こそは、原子爆弾をはじめつけた広島市民はもとより真に恒久平和を願う全人類の悲願の結晶であり、同氏の縦横無尽の活躍がなければとうていその完成をみなかったものである。こうした同氏の壮挙を讃え昭和27年3月31日付で広島市議会が次のような決議文を送った。「広島平和記念聖堂建設に対する感謝決議文 - 恒久平和を誠実に実現しようとする思想の象徴として建設せられるべき、わが広島市に貴下及び関係各位のご尽力により広島平和記念聖堂の建設が進められつつあることは、誠に意義深く、ここに市議会の決議をもって満腔の敬意と感謝を捧げる」

5. 更に同氏は、広島の被爆の実状とその意味を正しく認識させるため多くの著作により、あるいはローマ、ドイツ、フランス、スイス、アメリカ、アルゼンチン、ブラジル等の世界各国において、数百回に及ぶ海外講演を行なうなど、その活躍はめざましいものがあった。

6. 同氏は戦後においても広島高師、広島文理科大学などで教鞭をとるとともに、他方エリザベト音楽大学、広島学院中学校、高等学校などの設立に力をつくし、広島市の教育水準の向上に貢献された。

7. 同氏は原爆被爆者の援助を多年にわたり続け被爆者からひとしく感謝されている。

また教誨師として受刑者の更生や死刑囚の精神的な世話をするなど当事者はもちろん広島市民からも慈父のごとく敬慕されている。

8. 同氏はドイツ人として最高の教育を受け日本文化を体得して日本人に帰化されたものであり、日独文化の交流のいわば生きた手本であって、広島日独協会200人の精神的指導者として、多大の功労があった。

9. 同氏は、広島市郊外の可部町に禅道場「神冥窟」を設立し、永年にわたって市民に禅の方法による修養を指導し、市民の精神文化の向上に貢献され、他方において禅の真隨をその優れた著書、論文等によりヨーロッパ、アメリカ等の諸国の人々に広く紹介し、日本文化の理解に役立たせるなどの多大の功績があった。

10. 同氏は、広島市における仏教、神道、キリスト教の相互理解と協力を深めるために努力し、市民の宗教的情操を深め暖かい人間関係をつくりだすために多大の功労があった。

上記のごとく同氏の教育、文化、社会福祉等のあらゆる部面にわたって広島市民のため献身された偉大な功績は、とうてい常人の成し得ざるものであって、真に国際都市広島の誇りとして広島市民から深く尊敬されるに値するものがある。

この稿の資料と写真は、廿日市教会の金沢さんからご提供いただきました。有り難うございます。

なお、創刊号に掲載した金沢さんの「愛宮真備師と広島神冥窟」に訂正がありますので、お知らせします。

(6ページ左段下から8行目) 1972年 1971年

(同ページ左段下から3行目) 練獄 煉獄

(同ページ右段下から5行目)

Ungegenständliche Ungegenständliche

資料紹介

・チースリク神父は、ラッサール神父が禅への興味を余り話したことがないという。ただ、1943年にイエズス会で習慣となっている8日または10日間の黙想を津和野の禅寺永明寺で行い、禅僧と同じ日課に従って過ごしたことは聞いたことがある。これがラッサール神父にとって初めての試みではなかったかと話されています。日本民族の心性と文化を理解するため、禅精神の体得が必須の要件であることに気付き、また、現代の不安に打ち克つためにも、座禅が最良の方法であることに着目し、禅の悟りの境地がキリスト教の修徳と観想に寄与することを確信されていたようです。

「禅 - 悟りへの道」

愛宮 真備 著(池本 喬、志山 博訪 共訳)

(1967年4月10日初版 理想社)

(B6版 168ページ)

<内容>

- ・ラッサール神父が経験した参禅について西欧人のためにドイツ語で書かれた「Enomiya-Lassalle:Zen,Weg zur Erleuchtung」1960 (Verlag Herder,Wien)の全訳。
- ・悟り/悟りの活用/悟りの日本文化/悟りと神信仰/キリスト教的修徳と神秘主義への寄与/座禅の実際的案内

世界平和記念聖堂献堂50周年を迎える祈り

聖堂50周年を迎える祈りは、毎月6日を「ヒロシマ平和の日」として、それぞれの家庭や小教区で地区の実情に合わせて取り組んでください。

世界平和記念聖堂についての十分な情報のない人や小教区のために、毎月の「祈りの意向」を、お伝えしています。それぞれの家庭や小教区で、これらの意向や資料を参考に、一人ひとりの霊性を高める「祈りに」取り組んでください。

世界平和記念聖堂の建設を支えた一人である荻原晃(おぎわら あきら)広島教区長は、平和が与え

られるよう祈ることを次のように訴えています。

【荻原教区長の訴え】

神は、人間がお互いに愛し合うべきことを教えています。原子力を人間は人間の破滅のために使用すべきではありません。原子力を世界の平和のため、人類の幸福のために使用すべきであります。

今日のような原子力時代においては、特に注意して、それを悪用させないようにあらゆる努力を払うべきであり、お互いに良心的に行動し、隣人愛の精神によって全世界の人々が世界の平和のために協力しなければなりません。

神は人間一人一人を神の子としてお創りになり、すべての人間が兄弟姉妹として愛し合い、助け合うことをお望みになっています。そしてこの宇宙にあるもの、この地球上にあるもの、すべての原子もその原子力をも正しく使用することをお望みになっています。

原子力を人類破滅のために人間が使用することは神のみ旨にそむくことであります。まがった利己主義におちいることなく、また虚偽と暴力にまどわされることなく、すべての人々は真の神の国の建設のために働くべきであります。

広島の世界平和記念聖堂の玄関の大きな扉に次の句が刻まれてあります。「世界平和への門は隣人愛なり」と。この隣人愛の精神によって、すべての人々が生きて行くべきであります。

今日、わたしたちは原爆犠牲者の冥福を祈ると同時に、すべての人々が一日も早く隣人愛にめざめ、この精神をもって世界恒久の平和の実現のためにつとめるようにいたしましょう。旧約聖書のイザヤ書にこう書いてあります。

「神は国々を統卒し、多くの民の審き者となろう。かれらは剣を鋤とし、槍を鎌とする。民は民に向けて剣をあげず、もう戦うすべを学ばない」(イザヤ二・四)(中略)

「願わくは、神がすべての人々からあがめられ、いづくにおいてもそのみ旨が行なわれ、世界に波風のたたない平和が与えられますように」祈りましょう。

(出典「命拾い」荻原晃著 昭和54年4月 信友出版)

【今月の祈り】

(聖書の言葉)

4月の意向

「平和への門は隣人愛である」

世界平和記念聖堂の正面扉は、1954年にドイツのデュッセドルフ市から寄贈されたものです。

この扉は天国の門を現しています。すなわち、中央にはキリスト(JHSはギリシャ語「イエス」の頭3文字、またはラテン語「人類の救い主なるイエス」の略語)を象徴した十字架と釘打たれた両手・両足といばらの冠を見ることができます。

十字架を取り囲む4つの生き物は、ヨハネ黙示録第4章にある獅子のような動物(マルコのシンボル)、若い牡牛のような動物(ルカのシンボル)、人間のような顔を持つ動物(マタイのシンボル)、鷲のような動物(ヨハネのシンボル)が配置されている。

周囲の曲線は「虹」、上部の鳩と舌のようなものは「聖霊」を現し、周囲には長老たちが座っている。

この扉の裏側(聖堂の中)には、「平和への門は隣人愛である」と刻まれている。

私は、あなた達のために立てた計画を良く心に留めている、と主は言われる。それは平和の計画であって、災いの計画ではない。将来と希望を与えるものである。(エレミヤ 29-11)

(黙想)

(祈り)

主よ、私たちは『世界平和記念聖堂』献堂50周年に向かって、今「祈りの扉」を開こうとしています。

「平和への門は隣人愛である」と刻まれた聖堂正面の扉は、日本と同じような戦禍を経験し、同じ貧しさの中にあつたドイツのデュッセルドルフ市から寄贈されたものです。

人類初の原子爆弾が炸裂したまち「ひろしま」から、『世界平和記念聖堂』の建設を呼びかけられたラッサール神父の魂の叫びが、戦禍の苦しみの中にある人々の「心の扉」を開かせ、痛みを伴う多大な犠牲が払われたことを、この扉は物語っています。

主よ、どうか私たちが「平和への門は隣人愛である」との言葉を心の奥深く刻み、平和の使徒として、『信仰の扉』を、外に向かって開く勇気と力をお与えください。

被昇天の聖母に捧げられた世界平和記念聖堂によって、数多くの人々が本当の、そして深い心の平和を見つけ、世界平和の礎(いしずえ)になりますように。



(扉を觀賞する萩原教区長、ラッサール神父たち)



今月の「聖書の言葉」と「祈り」は、幟町教会が担当しました。

各地区の取組み

世界平和記念聖堂献堂50周年の取組みは、各地区、各小教区で自発的に取組むことを基本にしています。3月14日に行われた教区宣教司牧評議会で報告された各地区の取組みを紹介し、これから取り組まれる活動の参考にして下さい。すでに、これ以外にいろいろな取組みをされている小教区もあると思います。是非、皆さんにご紹介下さい。

<広島地区>

- ・五つの部会のどこかに各小教区の信徒会長が属して、部会活動を支えることにしている。
- ・ラッサール神父の思い出を語る会や講演会などを行っている。
- ・記念聖堂への巡礼を小教区で話し合っている。

<山口・島根地区>

- ・10月17日の地区大会のテーマを「こころを一つに平和を宣べ伝えよう」としている。
- ・自分たちの教会の献堂の歴史を学び、キリストの平和について、取り組んできたこと発表する。
- ・地域に根ざした教会にするため、それぞれの地域の問題を掘り起こすよう小教区に提案している。
- ・各小教区、各ブロック単位で平和記念聖堂への巡礼を取り組むこととしている。

<岡山・鳥取地区>

- ・人権を考える一年にしている。
- ・各小教区で記念聖堂への巡礼に取り組む。
- ・ルメール神父の講演会のビデオを各小教区に配布する。
- ・鳥取教会では毎月6日を平和のために祈る日にし、家庭でも祈ることとした。
- ・倉敷教会では、祈りと献金に取り組む。
- ・玉野教会では、教会から離れた人を呼び戻す試みや、若者が来やすい教会づくりに取り組む。
- ・岡山教会では、広島への巡礼を計画している。
- ・岡山南教会では、イベントではなく、生活に密着した話しを中心に平和を考える。

部会報告

<総務部会>

3月14日に広島教区の司牧評議会に代表が出席して現状報告と小教区の担当者(連絡係)を決めていただくようお願いをした。また、50周年記念行事の予算などについて常任委員会で話し合い、教区事務局と調整をしている。

<霊性・典礼部会>

第4回部会を開催した。8月5日の献堂記念ミサの式次第や典礼、巡礼の受け入れ方などについて話し合った。また、例年行われている平和行進などの行事は、平和実行委員会で担当していただくことを確認した。

<平和活動部会>

3月20日に約80名の方々の参加の元に「ラッサール神父と共に働いた人々の話を聞く会」を開催した。今後、平和活動、聖堂のスケッチや平和の歌の募集、講演会の開催などの記念行事を実施すべく準備する。

<聖堂存在維持部会>

2回目の部会を開催した。保存のための献金活動など今後の取組みを話し合いました。

<記念誌部会>

2回目の部会を開催した。まずは委員が世界平和記念聖堂を知ることから始めることとし、4月17日(土)に聖堂見学を行うことにした。

献堂50周年ニュース

vol. 01 (No.3) 4月号

2004.04.01 発行

(編集・発行)

カトリック広島司教区

世界平和記念聖堂献堂50周年実行委員会

常任委員会

〒730-0016 広島市中区幟町4番42号

Tel 082-221-0621

ホームページ <http://www.hiroshima.catholic.jp/>